

地域と共に 桜と水辺の散策路

～篠田堀親水緑道～

東京都江戸川区 篠田堀親水緑道を愛する会／江戸川区



1 社会資本の概要

江戸時代から地域の暮らしとともにあり、生活・防火用水や舟運など生活に欠かすことができなかった水路は、高度成長期の都市化に伴い、緑とせせらぎが失われ、生活排水が流れ込むなど環境は急速に悪化していきました。そこで下水道を整備するとともに、自然回帰を目指し平成6年に「篠田堀親水緑道」は整備されました。既存樹木をできるだけ活用し、桜を中心とした26種類3,180本もの樹木が

彩る緑のアーケードは地域の住民に愛されています。水路は石積み護岸や河床に砂利を用いるなど、魚類や水生昆虫などの生息環境にも配慮。「江戸川」から引き入れている自然水を使用しているため、かつて生息していたオイカワやムツゴも確認されており、多様な生物の貴重な生息場所にもなっています。



桜のトンネルは地域の象徴



緑のアーケードと石積護岸



安心・安全の通学風景

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

「篠田堀親水緑道」の整備をきっかけに、流域の町会・自治会が団結。「緑道をこよなく愛し、その自然を守り、心のふれあうふるさとづくり」を目的に「篠田堀親水緑道を愛する会」は発足しました。整備そのものが目的ではなく「地域の財産として守り育てる」を合言葉とした地域主体の保全活動が特長となっており、清掃活動には13自治体に加えて沿道に所在する地元企業や近隣小学校のPTA・児童

も主体的に参加するなど、町会・自治会の枠を超えたコミュニティが形成されています。また、近隣の小学校においても、水辺生物の専門家やゲストティーチャーを迎えての環境学習や総合学習の時間等で、都内でも貴重な自然豊かな環境を活かした授業が行われており、子供達が楽しみながら自然調和を学習しています。



緑道から水路まで丁寧に清掃



自然に親しみ貴重な環境



児童とともに放流イベント(平成26年)

3 活動の成果や波及効果等

近年では、地元警察(ふれあいポリス)がコミュニティに参加するなど、地域の見守りや防犯意識啓発の場として活用の幅を広げているほか、平成22年には江戸川らしさを象徴する景観ポイントとして「えどがわ百景」に選定されました。探訪マップ・江戸川区公式アプリ「えどぶら」では桜の名所として紹介されており、地区内外に魅力を発信しています。



地域を見守る会員とふれあいポリス

4 前回受賞時からの活動の発展内容

「ゆたかな心、地にみどり」を合言葉に区民と江戸川区が一体となった緑化活動は令和2年で節目となる50周年を迎えました。区が活動団体を支援する制度(アダプト制度)に創設時から参加するなど、行政との信頼関係を基礎に四半世紀にわたり継続してきた清掃活動は、年間約1000人の参加者を数えるまでに発展し、心のふれあうふるさとづくりを推進しています。

喜びの声



受賞者

篠田堀親水緑道を愛する会
会長
石塚 三郎

コメント

今回の受賞は清掃活動の関係者及び地域の皆様のご尽力の成果です。平成7年から始めた活動が26年も続いたことに深く感謝します。月一回の清掃に篠崎第三小学校の児童やPTAの皆様、王子マテリアの社宅の皆様も加わり、現在のきれいな環境が維持されています。上流は若い桜で下流は樹齢60年以上の大きな桜でそれは見事です。地域の人たちが誇りを持ち次の世代に繋げるように精進いたします。

活動の内容

- 地域一体となった清掃活動
- 豊かな自然を活用した取組み

活動の経歴

- 平成 7年 篠田堀親水緑道を愛する会設立
- 平成 7年 手づくり郷土賞(自然部門)受賞
- 平成 16年 児童による自然観察会(10周年記念)
- 平成 26年 児童による川魚放流(20周年記念)

- 所在地 東京都江戸川区
- 活動主体及び連絡先 篠田堀親水緑道を愛する会
03-3679-1124(事務局:東部事務所)
- 対象となる社会資本 篠田堀親水緑道

